

第1回 駅まちづくりセミナー

「まちなか広場の可能性を探る」

令和4年10月31日（月）に、松山市駅やJR松山駅の整備で新たに生まれる「駅前広場」が、より楽しく・多くの人で賑わう場所になるため、全国各地で取り組まれている「居心地の良い広場づくり」を学ぶ「駅まちづくりセミナー」を開催しました。

第1回のセミナーでは、「まちなか広場の可能性を探る」をテーマとして、山下裕子氏に他都市の駅前広場の活用事例や広場運営の様子を紹介していただきました。

その後の意見交換では、参加者の皆様から多くの質問や意見をいただき、まちなか広場の可能性について活発な議論がなされました。

開催概要

開催日時	令和4年10月31日（月） 14:00～16:00	
開催場所	松山市役所本館5階会議室 & オンライン「Zoom」	
主催	松山市／一般社団法人松山アーバンデザインネットワーク	
参加人数	会場	20名
	Zoom	最大16名



プログラム

- 14:00～14:05 ・開会挨拶
- 14:05～15:00 ・講演（山下氏）
「まず、自分が滞在してみる 主体性を育む 広場の極意」
テーマ1：子どもの居場所
テーマ2：チャレンジの機会
テーマ3：遊びこころのある人の居場所
- 15:00～15:10 ・休憩
- 15:10～15:55 ・参加者と意見交換（会場のみ）
- 15:55～16:00 ・今後の予定、閉会挨拶

講師



山下 裕子 広場ニスト／ひと・ネットワーククリエイター

2007年よりグランドプラザ運営事務所勤務。2009年（財）地域活性化センター第21期全国地域リーダー養成塾修了。2011年よりNPO法人GPネットワーク理事。2013年より全国まちなか広場研究会理事。2014年より個人活動開始。様々な地域のまちなか広場づくりに地元の伴走者的立ち位置で活動を続ける。著書に『にぎわいの場 富山グランドプラザ－稼働率100%の公共空間のつくり方』（学芸出版社）『生きた景観マネジメント』（共著・鹿島出版会）、『コンパクトシティのアーバンイズム』（共著・東京大学出版会）

その場所を使っている人がいて はじめて、「場所」にみえる



平日の昼下がりのにぎわう富山のまちなか広場「グランドプラザ」

開業当時（2007年）では、テーブルとイスを設置したが誰も利用していなかった。しかし、現在は平日も多くの利用者でにぎわう魅力的な空間へと進化を遂げた。

山下氏が語るその進化の裏側とは **裏ページへ**

◆ テーマ1：子どもの居場所

地域にあそび場が在ることは子どもが地域に関わりをもつ
機会につながる未来への投資

平日の日中に広場を使う人は誰だろうと考えると、未就学児や小学校低学年の子どもたちが思い浮かびました。そこで県内の幼稚園・保育園・小学校に「広場に遊びにきませんか」とご案内し、子どもたちに遊んでもらいました。富山では、タイルにお絵かきをしてもらい、描いた後はしっかり掃除をしてもらいました。子どもたちにとっては掃除も遊びの1つで、絵を描くよりも長く取り組んでもらい、子どもたちにとっては何でも遊びになるのだと思いました。やはりまちを思う人は、まちに思い出がある人です。これからの地域を担う大人になる子どもたちに、松山にとってこれから大事なものに触れ合う機会がある広場を積極的につくってもらいたいと思いました。



タイルを掃除する子どもたち

◆ テーマ2：チャレンジの機会

空間の可能性は、無限大
可能にするためN oはナシ

富山で広場を運営する際に大切にしていたのは「できません」という発想はやめることでした。色んな人が自由な発想をしてくださるわけですが、それを少しでも叶えていこうという姿勢がなければ、何かしようと思う人の気持ちが少しずつ萎縮してしまうことを感じたので、そう決めていました。

写真は富山大学の学生さんによる学園祭のPRの様子です。当時、富山県内の大学が統合し、学園祭が進んでいませんでした。それでも学生さんたちは「正式な学園祭ではなくても何かやりたい」と熱い気持ちがありましたが、当日の広場は全面予約があり、どうしても使用ができませんでした。ですがN oを言わないと決めていたので、どうにかできないか一生懸命考え、広場を通り過ぎればいいんじゃないかと思い付き、なんと通り過ぎました。そうすると面白い格好で通りすぎるものですから全員目が止まり、PRをするという目的は当初の予想を上回る達成を成し遂げました。



学園祭のPR仮装



広場を通り過ぎる仮装集団

◆ テーマ3：遊びこころある人の居場所

×課題の解決 ○楽しいから、はじめる

富山では、グランドプラザを通して街の賑わいを創出するため「NPO法人GPネットワーク」という緩やかなネットワークを作っています。活動の1つとして、雨の日が多い富山で活動を続けられることに感謝し、グランドプラザのガラス屋根の清掃をしています。またガラスの屋根は下から見えるので、毎年県外からスパイダーマンが遊びに来てパフォーマンスしてくれます。こうしたように楽しいことからはじめることで、長く楽しく続けることができます。



ガラスの屋根でパフォーマンス

- 松山市駅前のアーケードが撤去され、青空が見えはじめ、人の動きや滞留に変化があったように思います。富山でも広場ができて、周辺のテナントの構成などに変化があったのでしょうか。
 - ▶ 元タネクタイ屋さんだった店舗が世代交代でテイクアウト専門のパフェ屋さんになっていることがありました。店舗の前に広場ができ、食べる場所が生まれ、最近増えているテイクアウト可能な店舗と広場利用者のニーズがマッチし、互いに共存しているのだと感じました。
- グランドプラザの広場を日常的に利用されている人たちは、どのような交通手段で訪れているのでしょうか。
 - ▶ マイカーでお越しになられる方が多いです。ただ、富山市は公共交通の政策に力を入れており、この20年間で路線バスの利用者が増加しています。乗客はご高齢の男性が多く、バスの中で「お久しぶり」と会話をされている光景も見ました。もしマイカーが運転できなくなっても、出掛ける手段として公共交通が保たれているし、出掛けたくなる気持ちが育まれている人が少しずつ増えていると実感しました。
- 松山市は自転車の利用者が多いのですが、富山市で広場に集まる自転車の利用者たちはどこに自転車を停めているのでしょうか。
 - ▶ 富山市は無料の市営駐輪場が増加しています。他にも姫路市は、有料の駐輪場を整備し「ちょい停め」と「長時間停め」に分けて料金設定をして収益にもすることで、駐輪問題が緩和されていると感じました。
- コンパクトシティやスマートシティが進められ、効率化されていく社会の中で、広場という暖かいものはとても大切で、市民として広場をつくることにじっくりと取り組んでいきたいと思いました。
- 産官学が連携し、広場の整備後にこういった使い方をしていくのかを最後までしっかり考えていくことが必要だと思いました。
- テナントのゴミ問題の解決案、広場にあると良い設備はありますか。
 - ▶ ゴミ収集事業者を一本化することや収集時間帯を広場利用者が少ない時間にすることが大切だと思います。広場にあると良い設備は、動かせるイスとテーブルかなと思います。動かせることで、人は自分の居場所としての価値を見出し、居心地が良くなると思っています。居心地が良いと広場を大切に利用し、綺麗にしたいという気持ちが芽生えると思っています。広場を綺麗にする活動などは関係者の中で閉じずに、様々な会や活動を通して共同作業をする姿勢が大切だと思います。